

特色ある学校づくりの推進

「勉強いっぱい」自ら学びとる子供



主に算数科の授業改善をととして、活用する力の向上を図っています。また、発展的な学習や補充的な学習を取り入れ、指導形態を工夫した授業を行うことで、児童の学習意欲の向上が見られます。さらに、豊かな学習の保証として、専門性を生かした授業を展開しています。ゲストティーチャーを招いての図工や音楽の授業では、子供たちは目を輝かせながら活動します。教員はこれらの授業を積極的に参観し、自主研修の場とすることで、授業力向上を図ります。



ボランティアさんから読み聞かせの指導を受け図書委員会の子供たちによる読み聞かせ集会が行われています。また、夏休み学習会は4日間行われ、多くの児童が参加し全教員が指導に当たりました。

「笑顔いっぱい」思いやりのある子供



本校の一日は明るい挨拶から始まります。計画委員会の「あいさつ運動」では、初めは、はずかしそうにしていた1年生も元気に挨拶する姿が見られます。また、6年生が毎朝、新入生のお世話する活動は伝統的に受け継がれています。入学当初の不安も上級生の優しい対応で和らげられます。この交流は6月のなかよし遠足の活動まで続けられます。「笑顔いっぱい」の心が育つ活動です。



「元気いっぱい」進んで体をきたえる子供



元気いっぱいのたくましい児童の育成を目指して、体育学習の他にも全校スポーツタイムや長縄大会・持久走記録会に向けた取組などで、体力の向上を図っています。

運動会では先輩から後輩へと引き継がれた「大小ソーラン」(4年生)の気合いあふれる力強い踊りが披露されています。ソーランの引継も本校の伝統的な行事です。



協働教育の実践事例

＜学校支援ボランティアの活躍＞

町の学校支援事業事務局を通して1年間でのべ800名を超えるボランティアの皆様の支援をいただいています。中でも特に多いのは伝統文化教育の授業のゲストティーチャーとしての支援です。地域の伝統や文化を受け継ぎ守り、また次代に伝えようとする地域の皆さんの生き方に触れることで子どもたちの人格形成にもつながっています。また、55名の地域の皆様に「大小見守り隊」として、主に児童の下校時の見守りをお願いしています。児童を通して届ける見守り隊日よりで学校の情報をお届けしています。

＜仙台大学との連携＞

「知・徳・体」のバランスのとれた児童の育成を目指し、仙台大学との連携を推進しています。学生の専門性を生かした体育への支援のほか、昨年度は、ソチオリンピックで活躍された黒岩選手を招き、「夢を育む志教育」と題して講演会を開催しました。



＜地域活動への参加＞



大河原町主催の「健康祭り」への鼓笛パレードの参加、町民文化祭でのさんさ時雨の披露、オータムフェスティバルでの大小ソーランの発表など様々な地域の行事に参加し、発表の機会を与えていただいています。地域の一員としての自覚を促す活動です。地域の皆さんから教えていただくだけでなく双方向の活動を目指しています。

